

オンライン授業の実態アンケート



2020年6月30日時点 速報

仕事と育児の両立体験プログラム

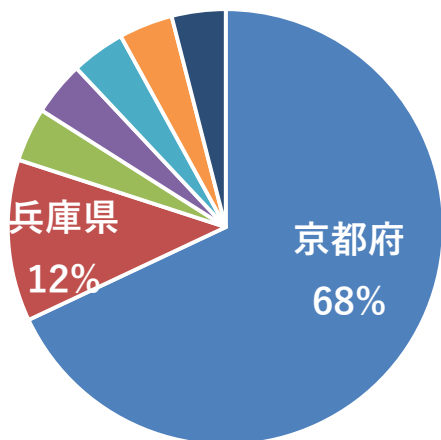
Sourire

スリール株式会社

お問い合わせ : kansai@sourire-heart.com

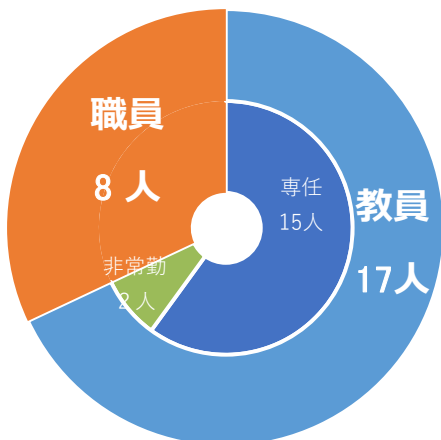
回答者の属性について（25人の回答）

1. メインキャンパスのある都道府県



京都府	68%	(17)
兵庫県	12%	(3)
大阪府	4%	(1)
神奈川県	4%	(1)
東京都	4%	(1)
宮城県	4%	(1)
北海道	4%	(1)

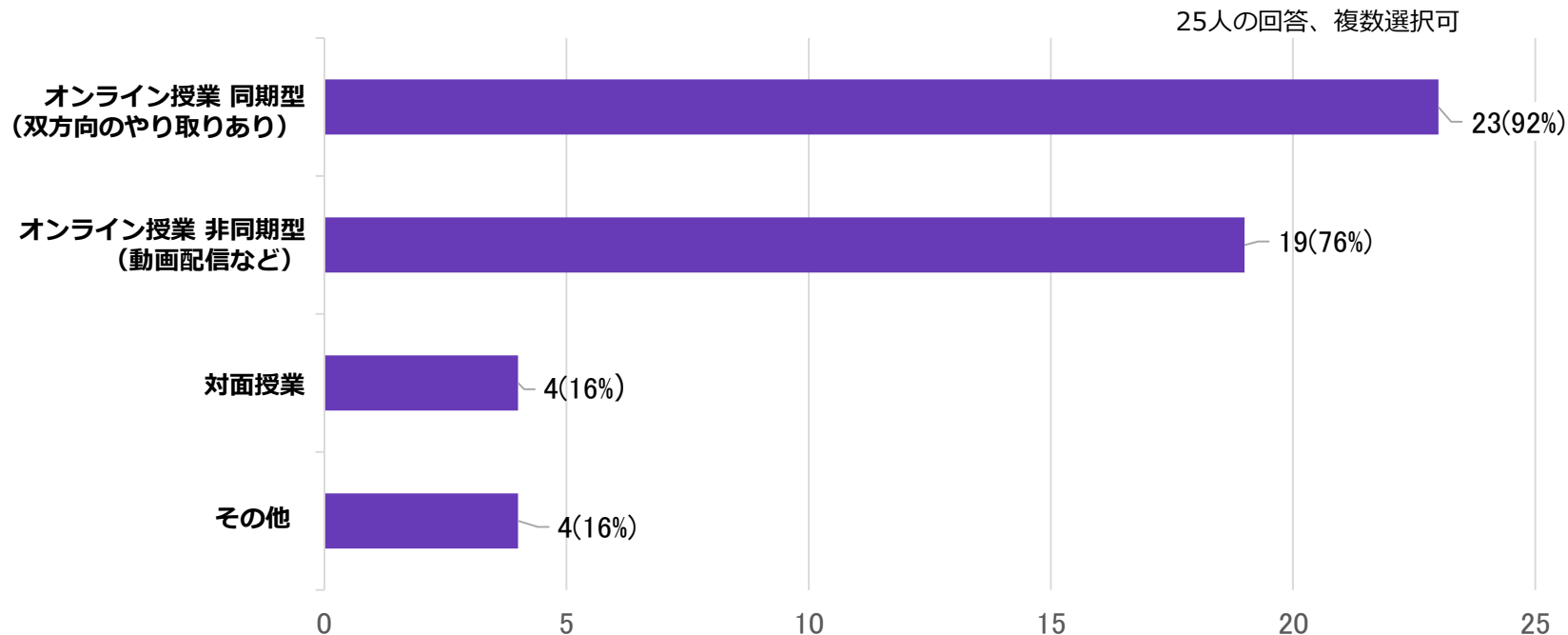
2. 教職員の内訳



教員	専任教員	15人
	非常勤講師	2人
職員		8人

※ 職員は全てキャリアセンターや就職支援課等、就職・進路支援部門所属

現在、授業はどのような方式で実施されていますか？

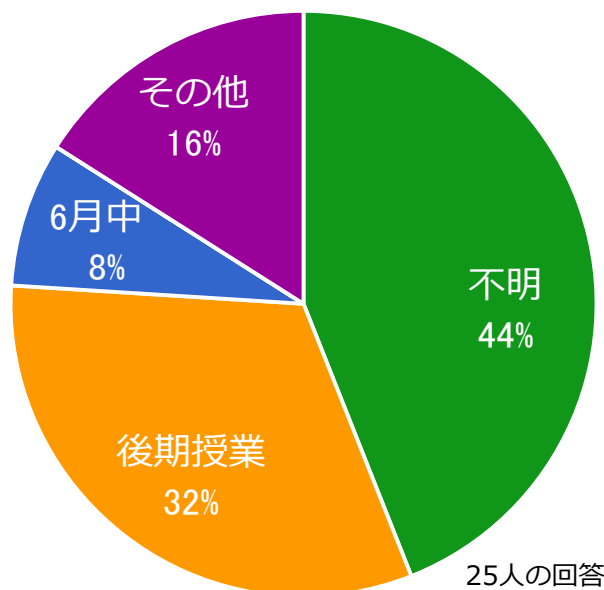


その他：出席代わりに課題提出、教室を2つにわけ1教室と自宅からの学生はオンライン 等

ほとんどの大学でオンライン授業が開始され、同期型・非同期型を含めると90%以上となっています。授業の内容によりオンラインと対面授業を組み合わせている大学も多く、模索中であることがうかがえます。

また、オンライン講義に参加できない学生がおり、課題提出で出席代わりにするなど配慮が必要なケースもあるようです。

対面授業への移行予定時期について教えてください



その他：

- ・2020年度は遠隔授業を原則として、実習・演習系科目のみ対面で実施
- ・後期はゼミは対面、大規模授業は引き続きオンラインとなる雰囲気
- ・実験実習などすでに対面で実施 等

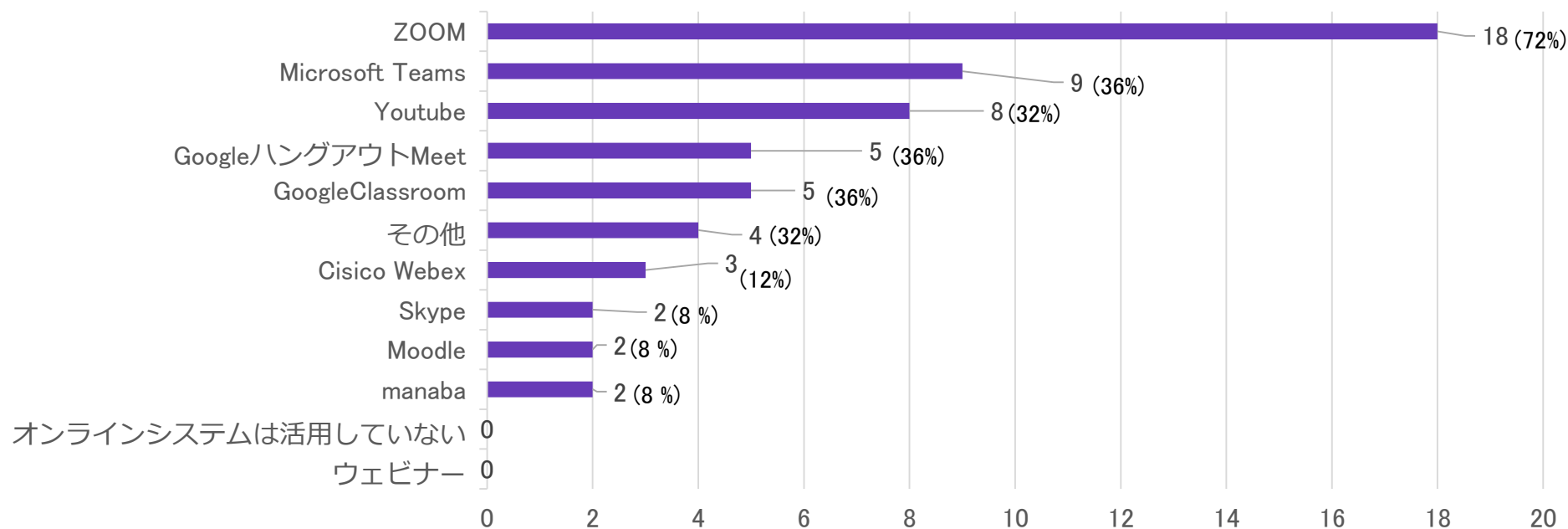
アンケート実施の6月時点では不明とする大学が44%に上りました。

あわせて、後期授業からは対面を復活させる方向で準備を進める大学も32%あり、判断の難しさを表す結果となりました。

その他では、授業の内容に適した方法を取るという趣旨の回答が多く寄せられています。

オンライン授業で使用されているツールを教えてください

25人の回答、複数選択可

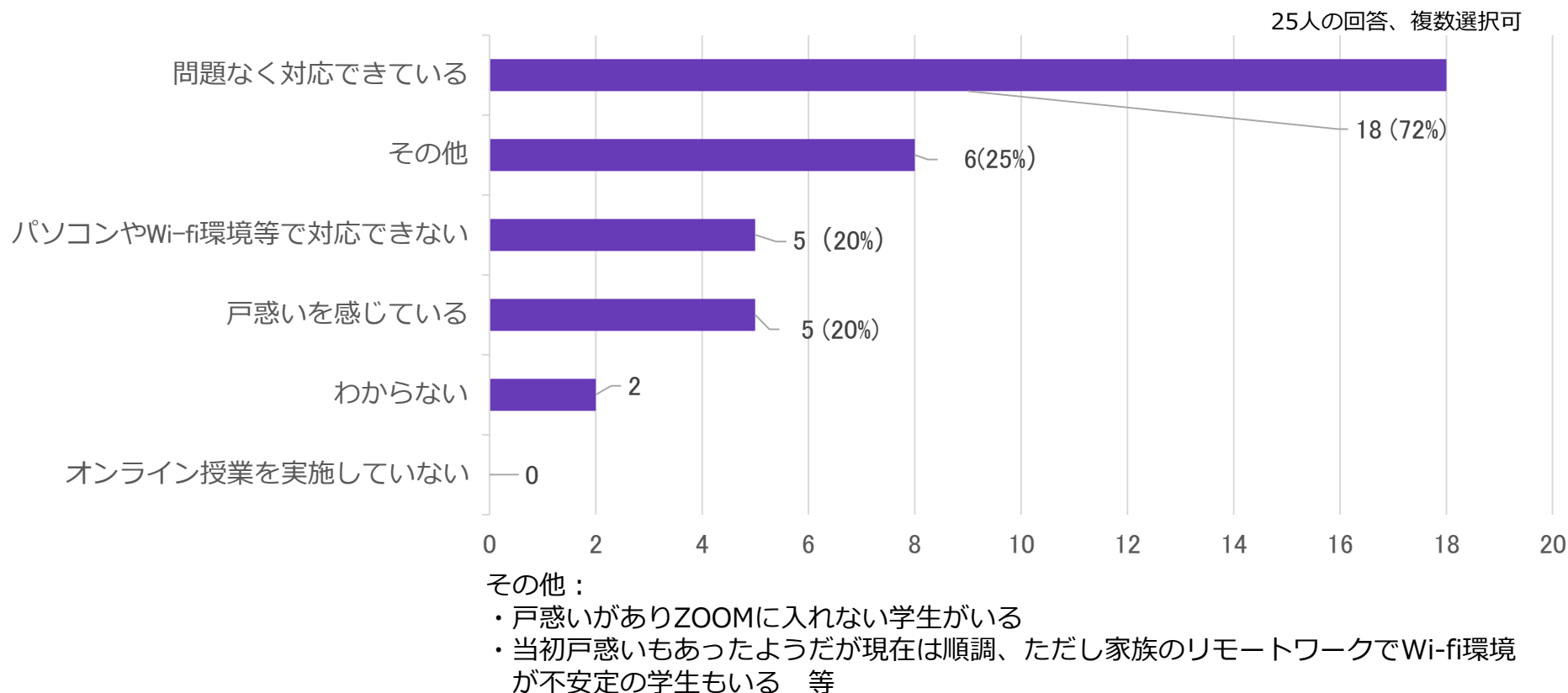


その他 : CloudCampus/BlackBord/GoogleJamBord/miro/Mural/Slide/Line

双方向のオンラインツールではZOOM、配信型ではYoutubeが最も多く使用されています。システムを活用していないケースは0%でした。

その他回答では、付箋ワークのできるMuralやオンラインホワイトボードであるmiro等の活用も寄せられており、複数のツールを組み合わせる授業が運営されるケースもあるようです。

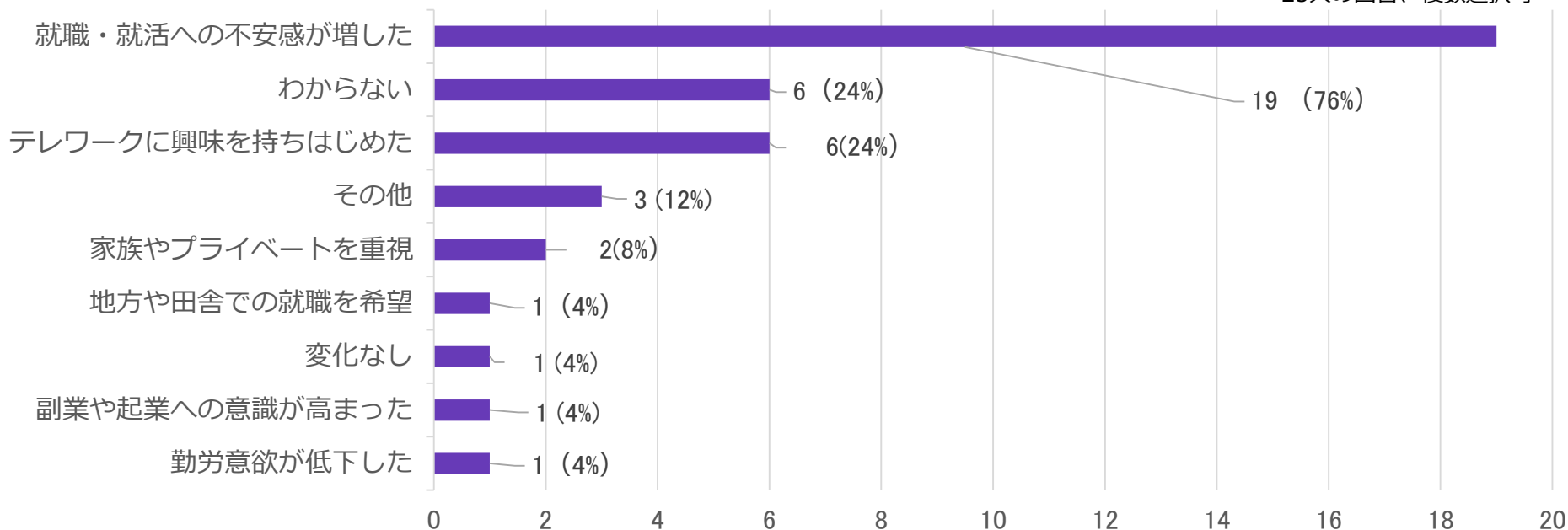
大学生の「オンライン授業」に関する反応・状況はどのようなものが多いか教えてください



概ね問題なく対応できている、もしくは当初は戸惑いを感じながらもなれてきたケースが**70%以上**となりました。一方で戸惑ったままや対応ができないという意見も聞かれ、学生により差が出ている可能性があります。

大学生の「キャリア」に関する意識に変化はありますか

25人の回答、複数選択可



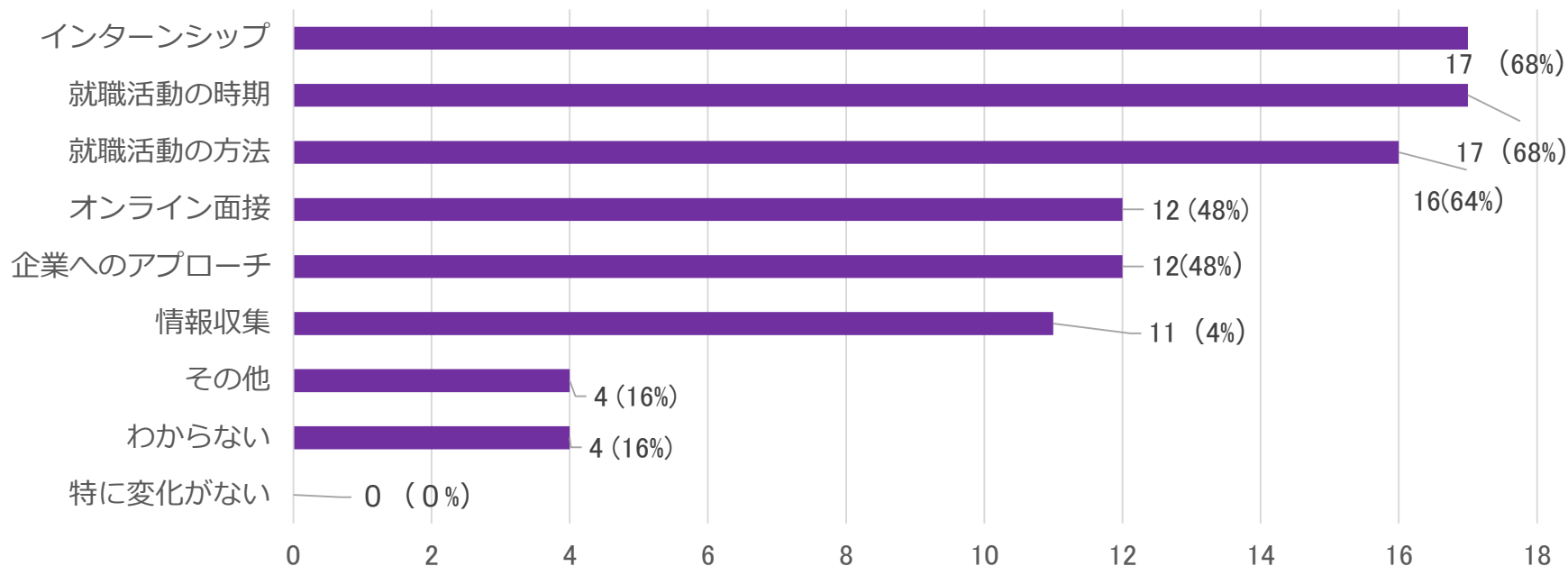
その他：

- ・利便性の反面、戸惑いが見られる
- ・一部の学生の声だけなので不明点も多い など

先行きが不透明なためか、**就職や就活への不安感が増しているとの意見が76%に上りました**。あわせて、テレワークや地方での就職、副業などの**新たな働き方に関心が寄せられています**。学生と接する機会も減っているため、わからないとの回答も24%ありました。

大学生の「就職活動」に関する不安感、困っている点を具体的に教えてください

25人の回答、複数選択可



その他：

- ・3年生はまだ就職活動について考えていない。4年生は問題ない。
- ・これまでとあまりにも異なるので不安しかないと思われる。

インターンシップや就職活動全般に対してどのようになるのか不安に感じているようです。インターンシップは2年生も参加することが想定されるため、**就活生だけでなく年次の低い大学生へもコロナ禍での就職活動に対して、サポートが必要**になって来ると考えられます。

オンラインでの授業運営をする上で、お困りのことがあれば教えてください

《準備・環境面》

- ・準備に時間がかかりすぎる
- ・オンライン授業の設計に関する教員のトレーニング、教材作成など技術面に関する教員のトレーニング、授業の実態の把握、質保証のためのPDCAサイクルの構築、学生のPCおよびネットワーク環境整備
- ・オンラインテスト等を本日も実施したが、環境の違い等に全部対応する等困難でしかない
- ・学生の回線の不安定さ
- ・授業の動画配信をしたいが、大学のリソース（設備、人材）が整っていない。
- ・オンラインでできることがたくさんあるのに、学生中心の授業ではなく、学校側のリスク回避や現場の人間でない決定に振り回される。機材や時間など負担が大きい。

《授業内》

- ・広い黒板を何面も使ってするのが適当な講義やセミナーについては、パソコンの狭いディスプレイの中で進めるのは非効率的である。
- ・反応が分からないことが多い
- ・グループワークにあまり適さない。空気感がわかenらぬ。

《その他》

- ・リアルタイムでオンライン講義に参加できない学生がいる時の出席をどうするか。オンライン講義の効果的な使い方がまだ見えていない。
- ・技術や経験のなさを縦に、授業準備に手を抜いている教員の愚痴を学生から聞く機会が多く、双方にいたたまれない。